

## 研究プロジェクト

年月日	事項	研究題目	概要
昭和60年3月1日～平成1年9月29日	First Class Honours		オーストラリア国立大学文学部言語学科を優等学位 (First Class Honours) で卒業した。
平成4年3月1日～7年5月31日	Australian Postgraduate Research Award		オーストラリア国立大学人文科学研究科博士課程在学中, オーストラリア国連邦政府による大学院研究生奨学金の交付を受けた。
平成4年3月1日～7年2月28日	Australian Priority Area Research Grant		博士論文Interlanguage Phonology: Acquisition of Timing Control and Perceptual Categorization of Durational Contrast in Japaneseが重点領域研究に選ばれ, オーストラリア国連邦政府より補助金の交付を受けた。
平成8年4月1日～10年3月31日	平成8-10年度科学研究費補助金基盤研究(A)(1)課題番号08308019(代表者:カッケンブッシュ寛子)	『第2言語としての日本語の習得に関する総合研究』	日本語学習者による第2言語習得理論の構築を目指し, 日本語・中国語・韓国語・英語話者の会話資料を音声音韻・文法・談話・社会言語学的観点から分析した。
平成9年4月1日～10年3月31日	平成9年度筑波大学学内プロジェクト(代表者:戸田貴子)	『外国人学習者による日本語音声の習得研究』	日本語学習者による音声習得の実態を明らかにするため, 音響音声学的手法を用い, 知覚と生成の両側面から中間言語音韻論の枠組みで音声分析を行った。
平成11年4月1日～12年3月31日	平成11年度筑波大学学内プロジェクト(代表者:戸田貴子)	『日本語学習者の発話における韻律的特徴とパラ言語情報の伝達に関する研究』	留学生の発話を日本人に聞かせ, 発話者の表現意図及び心的態度を判断してもらう実験を行い, 発話者の表現意図と聞き手に伝達されるパラ言語情報とが大きく異なる原因が, 不必要なピッチの立て直しや, ポーズの挿入などの音声的規範逸脱によることを明らかにした。
平成12年4月1日～13年3月31日	平成12-13年度科学研究費補助金奨励研究(A) 課題番号12780164(代表者:戸田貴子)	『パラ言語および非言語的側面から見た日本語学習者のあいづちに関する研究』	上の実験結果を踏まえた上で, 留学生の談話における言語行動を表現形式的側面, パラ言語的側面, 非言語的側面から分析し, 研究成果を日本語教育にフィードバックすることが急務であると考え, さらなる調査のために科学研究費補助金を申請し, 採択された。
平成12年4月1日～16年3月31日	平成12-15年度科学研究費補助金基盤研究(A)(2) 課題番号12358001(代表者:鎌田修)	『多元性のある日本語教育教材研究及び作成—欧州広領域での使用を目指して—』	過去4年間行われてきた日独ベルリンセンターでの「欧州日本語教員セミナー」の成果を基盤に, 欧州広領域での使用を目指し, 多元性のある日本語教育教材研究及び作成を行った。平成13年11月4～6日及び平成14年12月6～8日に欧州各国の日本語教育関係者を集め, ベルリン会議を開催した。
平成13年4月1日～14年3月31日	平成13年度早稲田大学特定課題研究助成費 課題番号2000-A-917(代表者:戸田貴子)	『パラ言語及び非言語的側面から見た日本語学習者のあいづちに関する研究』	
平成14年4月1日～15年3月31日	平成14年度早稲田大学特定課題研究助成費 課題番号2001-B-045(代表者:蒲谷宏)	『日本語教員養成における教育実習のあり方に関する実践的研究』	共同研究:蒲谷宏, 川口義一, 鈴木義昭, 佐久間まゆみ, 戸田貴子, 細川英雄, 吉岡英幸
平成14年4月1日～15年3月31日	平成14年度早稲田大学特定課題研究助成費 課題番号2001-C-011(代表者:宮崎里司)	『海外の日本語バイリンガル・イマーションプログラム導入教育』	共同研究:宮崎里司, 川口義一, 戸田貴子
平成15年9月1日	平成15年度早稲田大学学術図書出版補助		著書Toda(2003)の出版経費に対する補助を得た。
平成15年4月1日～16年3月31日	平成15年度早稲田大学特定課題研究助成費 課題番号2003-A-117(代表者:戸田貴子)	『「ない」を含む文の音声的特徴と表現意図』	表現意図, 即ち話者が相手に伝えようとするものが韻律によってどのように実現されるのか, 聞き手となった時には相手の発話の韻律から表現意図をどの程度知覚できるのかといった問題を, 母語話者と非母語話者との間で比較し, 「ない」の「否定」以外の用法を, 韻律と合わせて導入する必要性があることが確認された。
平成16年4月1日～17年3月31日	平成16年度早稲田大学特定課題研究助成費 課題番号2004-A-354(代表者:蒲谷宏)	『日本語教員養成における教育実践能力育成に関する実証的研究』	共同研究:蒲谷宏, 川口義一, 川上郁雄, 小宮千鶴子, 鈴木義昭, 佐久間まゆみ, 戸田貴子, 細川英雄, 吉岡英幸, 宮崎里司
平成16年4月1日～18年3月31日	平成16-17年度科学研究費補助金萌芽研究課題番号16652040(代表者:原田康也)	電話による日本語リスニング・スピーキング自動試験の運用性・信頼性・妥当性の検証	共同研究:細川英雄, 川口義一
平成16年4月1日～18年3月31日	平成16-17年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2) 課題番号16520357(代表者:戸田貴子)	『第二言語における発音習得プロセスの実証的研究』	
平成18年4月1日～21年3月31日	平成18-20年度科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号18320094(代表者:戸田貴子)	『音声習得ストラテジーと発音学習システムに関する実証的研究』	

早稲田大学大学院日本語教育研究科 戸田貴子